

1. 選択の科学(運命か偶然か)

運命: 札幌医科大学へ入学(数学教諭になりたい)

偶然: 芳沢先生を知る。

選択: 芳沢先生で学びたいと考える
(まだ可能性なので実行できていないが...)

友達ができ、桜美林に入学したのも偶然

ちょっと私の言葉が足りなかったかもしれません！友達や大学は偶然や運命なのではないでしょうか？それを選択だと考えることはできないでしょうか。授業でチラッとお話したように、物理学的にはすべて必然であるように考えることもできます。

しかし、例えそうだったとしても、自分の運命を予め知ることはできません。だったら、自分が生き生きするように考えましょう！
下の3人が書いてくれたように、自分が選んだ、と考えると力が湧いてきませんか？

「我はいかなる時も選択肢を持ち、ということと
認識しただけで人生がより豊かになるなと考えました」

自分の人生の失敗は、運命によって決められていたと考えたほうが楽ですか。

自分のせいだと考えると、より自分の選択の自由、重さを考えることができます。

私は人生は全て偶然だと感じていたのですが、
自分で選択したと考えることで、もっと楽しい人生が送れると気づきました。

『君の臓腑を食べた』という作品の中で「全てはみんな自分で選んでいる」(出会いも死も全て)という私が個人的に好きな台詞を思い出した。

タイトルは知っていました。しかし、そのタイトルで読む気がしませんでした。コメントを読んで、私も読んでみようと思いました！

不慮の事故、または加害者によって失われた命というのは、運命、偶然、選択のどれに当てはまるのか。

そういう場合は切実です。特に被害にあった当事者とその家族にとっては、とても深刻な問題です。今回の授業で、アイエンガーが言っていることは、外部からの要因でいろいろな事が起こることについてではなく、そういった状況で、私たちが何を選択するか、ということです。ラルストンの腕が挟まれたことが、運命か、偶然か、それともラルストンが歩いた道を選択したからなのか、が重要なのではなく、腕を挟まれたラルストンが、その後、どんな選択をしたかです。自分の一生を、加害者に被害を弁済させることに捧げる生き方も選択肢としてあります。しかし、そうでない選択もあります。

チラシを配布した映画「Conta! Timor」は東チモール、まさにそのような話でした。インドネシア軍にひどい目にあわされた住人たちの多くが、それを恨んでインドネシア人をののしる人生を生きるのではなく、前向きな自分達の人生を歩もうとする映画でした。

「自分の選択は必ず評価される」といっていて、自分の現在の状況も選択の結果はんがなと目が覚めた思いです。

私はそれを、本を書くために東北でインタビューしていたNさんから教えてもらったように思います。自分でもできたことを私は選択しなかった。それは私への評価につながることです。

今、皆さんにできることは無数にあります。それをしない、ということも自分の評価につながることです。

「選択の余地がない状態で人間は死を考えてしまう」と聞いたことがある。
「やらず、選択肢が死にながたう人間は何を考え始めるのだろうか」
最後の最後まであきらめないことを教えてくれていると思います。

ラルストンは、そんな中でも選べることを示してくれましたし、私たちが好きなヒーロー物でも、やはり、

今後の予定:

- [12] 12/11 : エネルギー
- [13] 12/18 : 原子のエネルギー
- [14] 01/15 : 科学とわたしたち
- [—] 01/22 : 期末試験
- [15] 01/29 : まとめ

2. 選択の科学(選択のトレーニング)

選択の科学、とは、まさしく、そのような人のための学問であると言えるでしょう。

私は、悩むたびに選ぶ時に思考が停止し、どうしようかと考えばかりで、考えばかりで、先に進めない、ということが多い。

アイエンガーの選択の科学の話は、選択が力を与えてくれることに加え、より良い選択をするためのトレーニング方法を示してくれています。トレーニング可能だという主張です。

ただの直感を情報に基づく直感に変えることができれば、自分の人生もっと良いものになるのかなと思いました。

選択する=何か人生をコントロールするから、日記をつけて自分で自身の選択した。という意識が強くあるから、その人生をコントロールできるのだから、もっと考えるからです。

選択を積極的にいいると、自分でしか選べない選択をやりこまなければならない。ぜひ、トレーニングすることを考えてください！そしてトレーニングによって、皆さんらしい選択ができるようになってほしいです。

『起業家の学び: 経済学』という授業でも誰でもできるが、誰にも思いつかないことを実行することが重要と聞いて、今回のこの授業と結び付いた。自分は日記をつけなくても誰しもが同じ様な事を行って、いると思った。いい指摘です！つまり、選択日記等をつけなくても、十分トレーニングできるのではないか、という考えです。実は、さっくり省略した部分で、アイエンガーが日記をつけるべき理由を述べています。記憶は、ときどき、自分の都合で書き換えられてしまうし、記憶だけでなく、感情さえ、自分自身で誤解する場面がある、というのです。詳細は、彼女の著書で勉強してみましよう。

3. メメント・モリ(Memento Mori)

「Memento mori」「死を思え」とは、「人はいつ死んでもおかしくない。いつ死ぬかは隣合わせない」という意味合いののではないかと考えました。

全くその通りです！死を基準にすることで何を判断すべきかの基準がわかることがあります。素晴らしい実践ですね！Jobs のビデオの 8:47 から同じような話が語られます。

Memento mori は 14 世紀に起きた黒死病で死者がたたくさん出たとき、現実から逃避しようとした人たちに向けられた言葉です。初めて知った時 衝撃を受けて、それから就寝前に「明日は目覚めない」、起床時に「今日私は死ぬ」と思うようにしています。また私は、山下弘子さんの活動に注目しています。

4. その他

* 授業の中で選択の技術の ~~手法~~ 一環として Pros and Cons を Pros → 反対、Cons → 賛成と紹介されたが逆ではないでしょうか...? などの単語がすぐに思い浮かびました。そもそも、pro の元の意味は「前に」で、con は「一緒に」ですから、そうした語源ではないと判断していたように思います。お詫びして訂正します。

指摘をありがとうございます！調べると、指摘の通りでした。私は、protest (抗議する・反対する) とか、consistent (一致した/一貫性のある)